

<b>第8回 第5分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年10月17日 午後7時00分～午後9時10分	記録者	【学生補助員】 久保田、竹前
		責任者	区事務局（松浦、池田）
<p>会議出席者：26名 （区民委員：19名 学識委員：2名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>①第7回会議録 ②基本構想・基本計画について ③区民委員作成資料 ④第4回「新宿まちづくり学」講座の案内 ⑤新宿歴史博物館 平成17年度特別展「濟松寺の至宝」の案内 ⑥第5回新宿区民俗芸能フェスティバルの案内</p> <p>■進行内容</p> <p>1. はじめに 2. 現基本構想・基本計画について 3. 廣江先生より 4. 区民委員による作成資料についての説明 5. 質疑・意見交換 6. まとめ 7. 事務連絡</p> <p>■会議内容（●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員）</p> <p>1. はじめに</p> <p>○：配布資料の確認（6点）</p> <p>本日の進め方について</p> <p>最初に事務局の方から、「新宿区の基本計画・基本構想」について全体的な説明をさせていただきます。その後、廣江先生から総合的なお話をさせていただき、6名の委員の方々に資料を作成していただきましたので、お一人5分程度その資料について、ご説明をお願いしたいと思います。その後、質疑・意見交換をさせていただいて、最後に先生にまとめをお願いします。そして、最後の事務連絡のところで11月と12月の日程調整についてお諮りします。本日はこの予定で進めますので、よろしくお願いします。</p>			

2. 現基本構想・基本計画について

- : では、基本構想・基本計画について説明させていただきます。6月18日開催の全体会でも資料をお渡し、大まかなところで一通りの説明をしましたが、何分沢山のことを一度に申し上げましたし、資料についても一度にいろいろな冊子をお渡ししてしまったので、わかりにくかった部分があるかと思います。今日は整理しながら、大まかになります。全体的なことを説明させていただきます。まず、先程、お配りしました「基本構想・基本計画について」の資料をご覧ください。もう、すでにいろいろ勉強していただいて、おわかりになっている方もいらっしゃるでしょうが、再確認の意味も含めて聞いていただきたいと思います。では、現在の基本構想・基本計画について説明させていただきます。基本構想とは、「区のまちづくりにあたり、区の将来像や基本的な理念を示すもの。区のいろいろな計画や事業は、すべてこれをもとに行う。」というものです。区が一番大もとの考え方になります。全体会の時に、このピンクの冊子をお配りしたと思います。こちらは、平成9年に策定しました、現在の基本構想です。詳しい内容については、後で読んでいただきたいと思います。こちらの現在の基本構想については、「人間性の尊重 自立と交流連帯 地域性の重視」という3点が基本理念となっております。「新宿区の将来像」とは、21世紀初頭を目標にして「こういう新宿区にしたい」ということですが、「ともに生き、集うまち ともに考え、創るまち」となっています。その将来像を創るための「基本目標」が、「①健康でおもいやりのあるまち ②ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち ③安全で快適な、みどりのあるまち ④にぎわいと魅力あふれるまち ⑤身近な環境に配慮した、地球にやさしいまち」として、5本の柱になっています。現在、区でいろいろな事業や計画を行っておりますが、その計画はこの基本計画、5つの基本目標に基づいて行われているということです。「基本構想」が一番大もとの考え方ですが、それに基づいて、次に「基本計画」というものがあります。「基本計画」とは、大きな理念である基本構想を実現させるために、もう少し具体的に目標や施策の方向性を示すものになります。「基本計画」は、やはり以前お配りしている、このブルーの冊子です。同じく平成9年に策定し、実施期間は10年間（平成10年度から平成19年度）ということで計画されております。5年後に、社会情勢の変化等により見直しをし、後期基本計画を策定しました。後期基本計画の、実施期間は平成15～19年度です。区はこの5年間は、後期基本計画に基づいて、いろいろな事業や計画を行っております。この計画は19年度で終了するため、皆さんに検討していただくのは、20年度以降の新しい計画ということになります。この「基本計画」がどのような構成となっているか、ご説明します。まず、区の基本的な計画の考え方が述べられています。基本的な考え方というのは、基本構想があり、それに基づき計画を立てた、という事が具体的に述べられております。そして、

その計画を立てた背景として、人口や土地利用の状況等が載っています。平成15年度から平成19年度にかけての、後期基本計画に関しましては、特に重点的に取り組む項目として、「①ともにささえ合う地域福祉 ②安全なまち、安心できるまち ③地域でつくる、環境にやさしく美しいまち ④区民と行政のパートナーシップによるまち ⑤生きる力をはぐくむ教育 ⑥新たな区政運営のしくみづくり」という6項目を計画の中に取り込んでおります。計画の内容については、レジュメの2ページ目をご覧ください。先程申し上げた基本構想の5つの柱とその柱を行政の方から推進するための第6章を付け加えまして、全部で6章立てになっています。それぞれの章に、施策項目が明示されています。第5分科会では、2章の「ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち」や、第4章の「にぎわいと魅力あふれるまち」の産業や観光のところで特に関連してくると思います。今申し上げたことを図にしたものが、レジュメ「計画の体系」です。まず、区の将来像、基本理念という大きな基本構想があります。それをもう少し具体的に計画したものが基本計画です。基本計画は具体的に方向性を示しますが、個々の事業については示しません。実施計画で、具体的な事業を財政的な裏づけをもって示します。実施計画については、平成17年度から19年度までは「第四次実施計画」に基づいて事業を行っております。これから平成20年度以降の新しい基本構想の見直しに向けて、区では初めて区民の方との協働と参画ということで、最初の案を作る段階から、会議に参加していただき、皆さんの目線でご意見を伺おうということを始めました。以前分科会でも、この基本構想の見直しを行う背景や必要性について質問がありました。様々な社会事情の変化があったと思いますが、特に今問題化されているのが、「急速に進む少子高齢化」という事です。そして「治安や環境などへの不安」。いろいろな事件が起きておりますし、環境面でも環境汚染の問題が取りざたされ、不安が高まっています。それから地方分権という面で、地方自治体の自立性が求められております。その他にも、10年20年と経つにつれて、様々な社会状況の変化が出てきますので、新しい基本構想の見直しが必要になっているところです。基本構想と併せて、基本計画、都市マスタープランも、今回同時に見直ししていきます。マスタープランについては、また後ほど説明しますが、区民会議で検討していくものが、どちらかという、ソフト面とすると、都市マスタープランはハードの面のまちづくりの将来像です。見直し・策定の方向としては、「協働と参画により、皆さんと一緒に計画をつくっていくこと、地方分権・住民自治の一層の発展と拡充をめざしていく、本格的な少子高齢社会の到来や安全・安心に対する関心の高まりに的確に応えるとともに、文化の薫るまちづくり、外国人との共生等の推進を図り、それらを総合的に推進していくための、区民等の参画システムの構築をめざす。」ということです。見直し、策定については、現在の計画はわかりにくい部分があるという意見をいただい

いますので、区民の方にとって分かりやすく、区民と行政の役割がよく見える形にしたいと思っております。

具体的なスケジュールですが、まず「基本構想」については、先程、現在の基本構想は、21世紀の初頭が目標だと申し上げました。今度は平成37年度を目標にしております。これは20年先の新宿ということですね。皆さんに、10年20年後の新宿について考えませんか、と最初に言いました。20年後の将来の新宿像について、20年後の新宿の理想像をどのようにしていったらいいのか、ということと考えていただきたいと思えます。そして、基本計画は、平成20年度～29年度の10年間について考えていただきます。「都市マスタープラン」は、主にハードな面のまちづくりということで、平成8年に策定され、10年が経過しました。その間の状況変化により、まちづくりにも新たな課題が生じたため、見直しが必要になりました。「都市マスタープラン」は、新宿区全体を見据えた「部門別まちづくり」と、「地域別まちづくり」があります。「部門別まちづくり」に、区民会議の内容を反映させ、「地域別まちづくり方針」に、特別出張所単位の地区協議会の内容を反映させていきます。次回の分科会で、所管の都市計画課の担当者から「都市マスタープラン」と「新宿まちづくりランドデザイン」の2点について説明をする予定です。レジュメ4ページをご覧ください。最後のページに、今後のイメージということで、スケジュールを示しました。現在、現状認識、問題点や課題の抽出の段階ですが、今後は2月19日に、中間のまとめの発表をしていただきます。ある程度まとめたものを、区報やホームページを使って発表し、他の区民の意見も広く募ります。3月～6月には、中間発表会で出された区民の意見を踏まえ、さらに検討を深めます。6月に分科会として提言をまとめていただいて、区長に提出します。区長は提言を最大限尊重して「新宿区基本構想審議会」に諮問します。新宿区基本構想審議会というものは、区民の方や、団体の代表の方、区議会議員、学識の先生等で構成される予定です。区民会議の方には、審議会が区民会議の提言について、一定の考え方をまとめた段階で、それに対する意見を平成18年11月頃提出していただきます。この役割を終えた時点で、区民会議は解散する予定です。「区民提言のイメージ」ですが、どうやってまとめていくか等は今後皆さんと話し合っていて決めていきたいと思えます。また、細かい事業の提案ではなく、理念や将来像などの大まかな方針を提出していただきたいと考えています。「基本構想」「基本計画」「都市マスタープラン」に関わるものを別々にではなく、ひとつにまとめて提出していただきます。提出していただいた提言は、次の観点から、「基本構想」、「基本計画」、「都市マスタープラン」の案に盛り込んでいきます。区政運営の基本理念や将来像については基本構想に、10ヵ年の目標、施策の方向性等につきましては基本計画、都市マスタープランに盛り込んでいきます。

以上、概略を説明いたしました。ご質問があれば、お答えします。

今質問が出ないようですので、今後検討していく中で随時お答えしていきたいと思っております。

3. 廣江先生より

- ◎ : 基本構想・基本計画については、もう少し質問が出てくるかと思っております。具体的な各論が出てくる段階で、皆さんの方からいろいろ意見が出るかもしれないので、またそのときに議論する時間が出てくるかと思っております。

第5分科会として、私が最初に考えたことは、産業、文化、観光という3領域について、私達はどうなりたいのか、どうすればいいのか目標をはっきりさせるということです。そのことで今までいろいろやってきました。産業、観光、文化として自分たちがどうすれば幸せになるのかを具体的にしていかなければいけない。いろいろな議論が出てくると思っております。そのためには、なるべく具体的な事実・数値に基づいて議論していかないと、空論になってしまう。今あるものをどう変えるのか、ということを引きちんとしていきたいと思っております。そういう作業を皆さんにやっていただいたり、我々の方でも方法について意見等を提供していきたいと思っております。例えば、商業を活発にしたいという人がいても、関係のない人は衰退していく商業に区民の税金をつぎ込んでもしようがないと言うかもしれない。その両方から見た場合に、どうしたら、新宿区民にとって一番幸せな状況になれるかを考えていきたいと思います。それをこの分科会の合意として、こういう目標を定めましょうという事が具体的に出てくるといいですね。そうすれば、それを基本構想、基本計画に対する第5分科会の意見として言えるわけです。いつまでに何をすればいいのか、という事を具体的にしていきたい。20年後の新宿はかなり状況が変わっているでしょう。大変なことがいろいろと起きているかもしれない。先を見据えて考えないといけない。20年先の事を考える訳ですが、10年先までにこれをやるとか、第5分科会の中で、時間を区切っても構わないと思っております。分科会の中で自由に考えていきたいと思っております。

そして、今あるものをどう利用するかという事を、絶えず念頭に置く事が大切です。例えば、観光という点でいうと、神楽坂は、歴史もあるし、新宿で一番有名といってよいほど文化的な発信をしています。しかし、防災という視点から見ると、危険だと考えられるでしょう。路地裏は観光にとっては良いが、大きな地震等が起きたときには消防車等の車が入れなくて危険だと言われるかもしれない。しかし、消防車が入れるように道路を拓げると普通車が入ってきてしまい、神楽坂の魅力である路地裏が無くなってしまいます。そういうことを考えると、その判断によってすぐまちの在り方が変わってくる。それによって一人一人の求めようとする幸せのありかたが変わってくる。単に道路を拓げようとするのではなく、その地域にとって何が幸せなのか、そこについて議論して行って到達点を見つけ

ていきたい。前回の基本構想・基本計画の時も大分議論したのですが、私は道路を拡げるべきではないという意見でした。日本全体でもそうですが、交通行政を考えた時に、車が入って当たり前というまちづくりをしている。私は、車が入れない地域があってもいいと思います。日本はそういう都市構造になっていないから、車が入って来られないようにするという事に一般的な理解が得られていない。アジア以外の外国では、古い中心地域を守るために、中心部に車が入れないようにしている地域もあります。豊島区でも復活しようとする試みがあります。こうしたことを考えると、いくつかの選択肢がありますが、なぜその方がいいか、私達の中で共通の理解を得られるようにしたい。場合によっては最後まで決着できないものもあるかもしれないが、全体としての合意はこうだけでも少数意見としてこういうのもあります、という第5分科会としてのまとめの方法もあります。皆さんがそれぞれ想いを持ち、時間を割いてわざわざ参加していらっしゃるのですから、皆さんがどうなりたいのか、考えてきたい。多角的に検討する材料として、事実と数値に基づいて、論理的な話し合いをしましょう。

例えば、今日材料をご提供していただいている区民委員作成資料というのがあります。今回、区民委員が用意してくださった数字も、かなり具体的な数字です。文化という側面を見ると、これだけの映画館がありますが、新宿区にとってこれをどうするかという事を考えたい。ただ、映画を多く上映すればいいという事で、第5分科会がとどまるのか、それとも、これだけ映画を公表する場所がある、ということを経済、日本全体で考えた場合に、新宿区民が、映画等の諸活動に関わりながら、もっといろんな事ができるようになるという事も考えられる。例えば、映画館で映画を上映する時に、そこから生まれるものをどう使うか、若い人も若くない人も映画を自分で作ってみようという事があってもいい。夜間に映画館で上映したり、街角の大きなビジョンに、ある時間一定の基準を作って区民の作成したものを流す、といった事があってもいいと思う。映画・演劇等を自分でもやってみたいという気持ちを持つようになる事が幸せかもしれない。単なる観客ではなく主役にもなってみようということが幸せなのであれば、それを目標にしていったらいいという事です。先日、私の大学の学生が野外で映画を上映しようという事をまちに呼びかけました。残念ながら当日雨で屋内になってしまいましたが。小さな試みですが、その中で豊島区内の音大の学生に協力してもらい、音作りのワークショップを開きました。小学校に協力を依頼して、小学生に参加してもらいましたが、大学で、こういう事をやるのは、制約が多くあり大変でした。こちらから迎えに行く、家に送ったときは親から印鑑をもらう等が必要でした。そこまでやって非常に苦労して、音というものをどうやって体感してもらうか。音大の学生のプログラムによってすごく面白い事ができました。そういうことをやっていくと、もっと楽しめる事がある。これも文化です。見る

だけ消費するだけでなく、自分たちで作りあげていくことを新宿区内でやっていく、そんなことを考えていければいいな、と思います。

例えば、今日の資料では、演劇関係でこれだけのものがある。これだけの器がある。これでどうなんだろうか。上演する場所が足りないのか、稽古場所が足りないのか、やり手が足りないのか、そういう問題を解決するために、材料として数字を使っていければいいと思います。そういう整理を具体的にやっていきたい。これからは分科会と分科会との間に、数字を調べるという作業が必要かと思っています。分科会で結果を提供してもらい、どうしたいかを考えていきたい。そして、その作業を次第に急いでやっていきたいと思っています。その際には、私も専門知識を提供することもできますし、他の専門家の力を借りることもできるでしょう。そして、なるべく分科会として、具体的な提言を作っていくという事が、これからの私のやりたい事です。

#### 4. 区民委員（5名）による作成資料の説明

- : この後、5名の区民委員に発表をしていただきます。どなたか区民の中で、司会をやっていただける方いませんか？いらっしゃらないようなら、こちらから指名させていただきます。（指名→了承を得る）

では、順番に発表していただきたいと思います。

- : Aさん（音楽について）

私は、都内のプロオーケストラ8つと、2000名以上のホールから100名以下のホールまで、規模の異なる都内の各音楽ホールがわかる資料を用意しました。私は東京フィルハーモニー交響楽団に勤務しており、その関係で今回区民会議にも参加しています。私どもは新宿区西新宿のオペラシティをメインとして拠点を構えております。都内の交響楽団というものは、資料に載っている8つです。オーケストラというものは、それぞれ地元という所がありまして、NHK交響楽団は、正覚寺の方にあり、NHKホールを中心として活動しています。私共は、オペラシティを中心に、サントリー、オーチャード等でも活動しておりますが、新宿をメインに活動しております。東京交響楽団は同じ新宿区ですが、川崎にミュージア川崎セントラルタワーができて、そちらの方を拠点に活動されております。東京都交響楽団は、上野の東京文化会館を拠点として活動しています。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団は恵比寿ですね。新日本フィルハーモニー交響楽団は錦糸町、日本フィルハーモニー交響楽団は杉並区、読売日本交響楽団は江東区を拠点としています。現在都内に8つオーケストラがありますが、4年前までは9つありまして、東京フィルハーモニーと新生日本交響楽団が合併して今の形で活動しています。また具体的な資料を用意しておりますので、次の機会に詳

しくお知らせしたいと思います。今日はとりあえず、都内にこうした交響楽団や音楽ホールがある、ということをご案内したいと思いました。以上です。

● : Bさん（演劇について）

インターネットで、小劇場のサイト等で調べましたが、結構大変でした。補足ですが、キャパシティが50～100人程度の所は、小劇場系として扱っています。ただ、小規模の劇団については、毎日劇団が作られ毎日解散していくといった感じで、把握しきれいていません。東京にいくつ劇場があるかというところと200から300位あるんじゃないでしょうか。また、早稲田大学や他の大学のキャンパス内にある小屋については書いていません。23番の紀伊国屋サザンシアターは渋谷区ですが、新宿に近いので載せました。国立劇場は新宿ではないので載せませんでした。主とした用途で、「演劇は稀」としているところは、用途としては演劇となっているけれども、基本的にはそうではありません。365日演劇で埋まっているところと、そうではないところがあります。この中で有名な劇場としては、1番の「東京グローブ座」、12番の「シアター・サンモール」15番の「文学座アトリエ」、20番の「紀伊国屋ホール」、21番の「シアター・トップス」、23番の「紀伊国屋サザンシアター」、24番の「シアター・アプル」、25番の「新宿コマ劇場」があります。今言った所は、「文学座アトリエ」を除いて、貸し小屋として人気があるので、ほぼ365日何らかの演劇が上演されています。新宿に拠点・事務所をもっている劇団は、はっきり確認できる所で15劇団くらいあります。古い所もあれば、新しい所もあります。9番の「青年劇場 スタジオ結」、15番の「文学座アトリエ」、16番の「TACCS 1179」は、俳協と言う劇団の劇場で、稽古場であったり、稽古場を併設していて、実質的にはそれぞれの劇団の劇を上演する場所になっています。33番の「シアター風姿花伝」等は、俳優さんが私財を投じて作っている場所です。全体的には、新宿区には稽古場がありません。新劇系の劇団は江東区に稽古場があり、多くの劇団がそこを使っています。唯一旧淀橋三小を芸団協が借りて花伝舎を作って、そこが稽古場になってきています。キャパシティ50～100人の劇場は、消防法等の関係で微妙な問題があります。出入り口が一つしかない、ビルの地下であるとか、何か事故が起きたら出られないとを感じる所等、消防法上問題があり、表立って劇場だと言えない所も多くあります。スプリンクラーなどの設備投資をするだけの金銭的な余裕がないことも理由です。紀伊国屋ホールは昔から人気があったのですが、満杯になるとすぐに消防署に電話されるお客様が多くて、私達としては困っております。

● : Cさん（映画について）

インターネットで調べました。平成17年度については資料がまだ無いので、15年度と16年度の資料になります。映画興業はやる映画によって全然違ってきます。日本の主要輸出産業にはアニメがあり、それと同様にアメリカの主要輸出

産業にはハリウッド映画があります。配給会社は、派手で面白いハリウッド映画を奪いあったものです。しかし最近の傾向では、一時期、芝居の台頭や、家庭ビデオの類で映画館が追い込まれましたが、それが回復傾向にあります。映画館で良い映画を観た人が、家でもう一度ビデオで観たり、関連グッズを購入するという現象も見られるそうです。一番いい例が「スタジオジブリ」の作品です。プロデュースが非常にうまく、映画がかかった後に関連グッズやビデオ、DVDの売り上げが伸びるという現象が起こっているそうです。映画館の方でもこうした傾向を面白いと注目しています。また、映画館の方でも対応を考えていまして、かつての映画館は、スクリーンが観えにくい事等がありましたが、それをなくすために観客席に傾斜をつけて、観やすくする工夫が、7～8年前に川崎のシネチッタから始まりました。映画は数多くあるが、人目に触れる映画はごく一部だそうです。その代わり埋もれた映画の中に名画はすごく多くあります。特にヨーロッパ、共産圏等で作られた映画の中に芸術的に優れたものがあります。日本では人気がないんですが、フランス映画やギリシャ映画等一部に熱狂的なファンがいるジャンルも、興行的にかかるようになりました。また六本木ヒルズの映画館等、平日のオールナイトをやっている所もあります。資料を見ていただければ分かりますが、私の子供のころは怪獣映画でしたが、現在は夏休みに「ポケットモンスター」等がかかっています。映画の世界は、一部は復活している面もあるのですが、全体的には頭打ちという意見を聞きました。ここからは私見ですが、ビデオだけではなく、WOWOWなどのケーブルテレビも大きな影響があると思います。一日中映画を流したり、音楽コンサートや、サッカーも放映されています。映画専用チャンネルが3つあり、一日中映画を流すようになりました。365日24時間映画を流すので、最近と同じ映画を繰り返し流すようになっています。小津安二郎等の古い映画も流されて、白黒の古い邦画も見直されてきています。こうしたものを劇場にかけると、お客さんが結構入らしいです。最近の邦画として「妖怪大戦争」は、ボランティアでベテラン役者が沢山出ていたらしく、その影響で今年の夏、話題をさらったそうです。昔は映画といえば劇場に行って観るものでした。今回いろいろと調べてみて、映画についても、今の時代に合ったものが出てきたんだな、という印象を持ちました。

● : Dさん（製造業について）

新宿区内の工場ということで、ネットで新宿区の統計の数字をいただきました。我々の染色業は地場産業に指定されていますが、一般論からいいますと事業規模が小さいために、国なり東京都なりの工業統計調査から漏れてしまうところが多いのです。今回は工場数として、数字をひろいましたが、染色業だけでなく思ったより工場としては少ないなという印象を受けました。また、この後、ご説明いただく方の産業分類と事業所数では、やはり数字に開きがあるのは、おそらく統

計をとる時の対象の事業所によって、数に差がでてくるのではないかと思います。ここに並べてあるものは、実際に統計で発表されているものを数値的に並べ替えました。本来なら、棒グラフなどにすればよいのですが、それですと多い少ないだけになってしまいますので、具体的に多い数字を上から順に並べ替えました。平成12年12月31日現在で、区内の製造業の工場総数1900のうち、1369が地場産業に指定されている出版・印刷・同関連産業になっています。その他の産業は本当に少なく、極端に100を割ってしまうものもあり、もしかしたら明日はないかもしれないという工場を含めると新宿区内には、他府県に比べますと、工場という数のレベルではないような気がします。

下の方に私なりの考察を書きました。落合周辺を基準に全体的なことを見渡したことを書きましたが、区内の製造業は、年表的に正しいとかずれがあるとかは別にしまして、東京オリンピックを契機にした道路整備、すべての道はローマへという作り方をしますと、環状線はいいのですが、それに入っていく道路が増えるごとにどんどん中心部の土地がなくなっていく。これによりまして著しい減少が部分的であります。新目白通りの開通によって、道路と鉄道は低いところに作るのが大原則ですが、土地も安いので、これによりまして、低いところに土地も安く密集していた工場地帯、一番なくなったのは大正製薬関連の下請け工場です。パッケージを作るところ、びんを作るところ、それに関連する大正製薬関連の下請け工場、また、落合周辺にあった町のいわゆる家内工業的に近い、ミシン針を作るところ、小さな関連工場がごそとなくなったのが新目白通りの開通によって、新宿区の町工場というものが本当に姿を消してしまいました。姿を消した原因として道路整備もあるのですが、産業というものと環境というものが非常に背中あわせになっていることにあります。今のように大きな工場が環境設備を整えて、ISOをとったりするなどのない時代でしたので、空気を汚すものは出て行けという社会的な風潮があったこともあり、また、土地も高くなりほとんどが郊外に出て行ってしまった。大きく言えば、例えば、西武新宿線に昔、引き込み線が二つあり、産業に応じたまちがあったのですが、大きな工場が撤収するごとに、だんだんまち自体もなくなり、関連する下請けの工場がなくなり、従業員の住むアパートもなくなりました。大きくは、製薬会社が道路整備でなくなり、その小さな工場がなくなり、その後、印刷関連の工場、製糸・精練・糸染工場など、私の小さい頃に記憶にあった町工場が相次いで撤収していきました。公害が社会問題化された時期と重なり、経営基盤の脆弱な中小零細な企業から移転や転廃業を余儀なくされました。新宿区の産業といえますか工場の実態のような気がします。現在の区内の製造業というのは、神楽坂周辺、神楽坂から飯田橋、落合にかけての出版・印刷関連の事業所は、何としても地場産業としての立地が一番際立っています。それ以外の産業は規模も小さいこともあり、染色を含めてあま

り際立っている地域はありません。ただ、昨今、目立ってきたのが、山手通りいわゆる環状6号線のオペラシティ周辺の情報産業が印刷関連と極めて関わりが深く、営業活動をしています。東中野あたりから新しくビルが建つと情報産業が入って来ることで、会社とか工場とか産業規模にはなってはいませんが、情報関連の産業というのが新宿区と中野区あたりで増えてきています。そういうことを考えますと、今後の新宿区の産業が情報産業というもの、いわゆる大消費地域ならではの、小規模ながら、消費者ニーズといますか、消費者ニーズと言っても商品を買うとか肉や魚を買うことに直結すればいいのですが、マスメディアとかメディア的な業種がこれから増えていこうという気持ちを抱きました。

● : Eさん（サービス業について）

出典は、毎年出ている新宿区の統計からです。総論的なものを私なりの見解を示したいと思います。5年に1度の事業所・企業統計調査の資料であり、データとして一番古いかもしれません。しかし、8年度と13年度を比べてもそれほどの極端な増減はないものと思います。また、東京都と新宿区の全産業に対する比率ではありますが、東京都に比べての新宿区の割合がどうなのかなどがこの表から汲み取れると思います。

新宿区の産業の中心は、商業とサービス業が非常に高い数字を表しています。資料の「I卸売・小売業・飲食店」と「Lサービス業」を合わせたもので、全体の7～8割を占めています。逆に、新宿区の産業で比較的少ないものは、製造業や金融・不動産などが比率としては少ないと読み取れると思います。また、製造業、卸売業・小売業、金融業等の8年度と13年度の比較が出ていますが、数字の大きいものは、5年経ったとしても、大勢的に変わってないように思われます。今回は、事業所数と従業者数の東京都と新宿区の比較あるいは、8年と13年との比較などを行っています。売り上げなどお金に換算したデータは出しにくいという面もあると思いますが、本来なら、もう一步踏み込んで、そうしたデータがあれば、もう少し深い洞察ができたかと思います。今の時点ではそれができないのが残念です。

○ : もう一人、商業について調べていただいた方がいますが、本日は用事があるため、お休みです。資料のみをお配りします。

5. 質疑・意見交換

司会 : ご指名がありましたので司会をやらさせていただきます。

5人の方から非常に具体的かつ事実に基づいた発表をしていただき、概念や実態がわかりました。

それでは何か質問があればどうぞ。

● : 新宿駅および新宿駅東口は、今後、10年間、平成27年度までの間に大きく変

わるのではないのでしょうか。そのことに関連する資料を入れた方がいいのではないのでしょうか。

司会：今のお話は大事ですし、10年後20年後を考える分科会ですので、駅周辺の問題についてはいずれ話しをしてもらい、ということでもよろしいのでしょうか。

●：産業、観光において新宿区は非常に隣接する区と微妙なバランスがあると思います。たとえば、文化や新宿駅南口に関しては渋谷区と密接に関連しています。情報産業では中野区と隣接しています。中小零細企業は練馬区、豊島区と隣接しています。新宿区だけでなく、もう少しエリアを広げて考えていかないといけない。これから10年先、20年先ということであれば、新宿区だけを考えると、隣接する区とギャップが生じたときに少し困るのではないか。やはり現実の生活に対応したことを考えるのであれば、もう一歩踏み込んで、資料を集めたりや考え方を広くもっていただけたらと思います。

司会：考え方の視点としては、非常に結構なことだと思います。

●：私も新宿駅の問題や隣接する区域との問題について、素材シートに整理して書いてきました。それぞれに関連した事が出たときに深掘りしていただきたいと思います。また、隣接地区にある文化施設、新宿駅西口と歌舞伎町を繋げる、観光ルートを産業として考えたかどうか等を書いてきました。

司会：非常に具体的で将来性のあるお話しでした。ぜひ、皆さんと拝見したいと思います。

●：高齢化社会では、遠くの大きな劇場まで足を運ばずに、もっと身近な所で映画や演劇を見たいと思う人が多いと思います。旧淀橋第三小学校を使って、劇団が稽古をしているだけではなく、区民が安い値段で一流の演者の稽古を観ることができらしい。年金の方が多くなる時の活性化、新宿も例外ではない。早稲田松竹は潰れそうになったが、地域の人々の努力で復活し、神楽坂まち飛びフェスタでも落語がたくさんいろいろな所でやっており、安い値段で観ることができます。高齢化社会では、大きいところだけでなく、そうした草の根の地域レベルでの活動についても、調べる必要があります。

司会：それらを具体的に調べられますか

●：これだけの人数がいるのだから可能だと思います。

司会：具体的で建設的なお話しだと思います。

●：先日、ある作家の方の講演を聞いた。江戸時代に3つの大きな不況時に行われた政策について話されました。どういう政策をとってきたかという、商人を大事にする、文化を大切にするという、これをもって改革がそれぞれ完成してきたという。商人が元気にならないと、そして、文化を盛り上げていかないと国は栄えていかない。改革で商人が勢いづき、それによって、文化が生まれ、今日の日本に延々と繋がっていると話されました。観光、文化を考えると、そういう視点で

見たとき、先ほどのお話しの中で劇場での稽古場が不足しているという問題がありました。解決していく方法は皆さんで話し合えばでてくると思います。日本の大きな過去の流れがそういう動きの中で生まれてきたことは非常に大切であると思います。

司会：発表された方と非常に関連あるお話しありがとうございました。

- ：新宿二丁目に非常に新しい劇場やスタジオが増えています。これは空きテナントが増えていることも原因です。今のうちには若者が集まりやすい環境がある。以前の分科会で新宿で古くからビルを持っている方は自前で商売しないで、テナント料で暮らしている人が増えているという話があった。あまり人の出入りしない商店の中に少しずつ劇場が出来てきて、逆にまちの活性化が図られている側面もある。10年経ったらどうなるのかな。インテリジェンスビルなどになっていることもある。新宿の固有の持っているまちづくりを考える時に、この劇場を含めて、産業、商業のことは非常に大きいのかなと思います。また、芝居屋は芝居がはねると、必ず飲みに行く。それがチェーン店の飲み屋が増えており、残念に思うことがあります。やはり街に根付いた馴染みの飲み屋などが欲しいですね。

司会：たしかに、高齢化社会ということも踏まえて、人や小さい子供や商店や住宅が少なくなってきた。その中で築10年やそらの空きビルが目立ちますね。テナントが空くことに対しても周辺エリアとの関連、文化、産業、観光という面からも考えていきたいですね。他にありますか。

- ：産業、文化、観光で自主的に集まり、新宿の周辺地区の地区協議会にも行きました。事前の準備として40人くらいに声をかけて4日間くらい打ち合わせなどしました。内容が多岐にわたり、短期間の中で他の分科会と絡めながらテーマについて結論を出せるのか心配に思いました。

司会：心配している人が私ひとりだけでないのがわかりました。安心しました。

- ：私は西早稲田に住んでいます。9月お休みしたので、情報探しのために戸塚特別出張所に行きました。そこで、「障害者・高齢者の早稲田・高田馬場地域生活情報マップ」というものがありまして、主にお店などの紹介なのですが、引越してきた方など、役に立つのだなと感じました。たとえば、早稲田松竹は約1年間の休業のあと営業を再開しましたが、それまでは松竹系の配給の映画だけだったが、色々な映画を上映するようになりました。中国の映画の特集や、「ロード・オブ・リング」を3週連続で上映するなど、色々な特集を行っています。こうしたマップの存在をほとんどの人が知らない。有益な情報が多く載っているものがあるのに、埋もれているような気がします。もっと多くの人を知りたいと思います。ほとんどの方がご存知無いのはどうしたらよいかと考えさせられました。

司会：私も知りませんでした。ありがとうございました。

- : 廣江先生に質問があります。新宿は私鉄JR含めて鉄道の駅が多いまちです。鉄道の駅を拠点に行われている文化活動や観光に繋げている事例があれば、教えていただきたいです。
- ◎ : 東京駅では構内で音楽活動が行われています。新宿駅では、人があまりに混みすぎて、文化活動は行われていないようです。JRになってから、駅の上にビルを建て、物販もなされているようです。例えば、池袋でいうと東武百貨店が駅とかぶっていて、だから地域が廃れているという話もありますが、文化活動や伝統工芸を紹介したり、物産展を開催したりを百貨店主導で行っている。JRは系列のホテルを駅の近くに持っていて、そのホテルの部屋を使って、その地域の文化活動の場を提供している例もあります。一番わかりやすい例は東京駅や上野駅の音楽活動の場を行っていることです。では、新宿駅を考えた場合、駅を使うのか、駅周辺の店舗を使うとか、といういろいろな発想ができると思います。

司会 : ありがとうございました。

- ◎ : 中野区でのIT、情報の話ができました。自分もコンテンツや新しいビジネスに関わっています。コミュニティをインターネットで作るようになっていきます。インターネットで新宿だけを取り扱って、自分を投票して、テニスやお茶等の仲間を作ったり、文化活動を見に行くということも可能です。インターネットで仲間を募って見に行くことも最近できています。これは千代田区や文京区もやっていて、新宿区に限ったことではありません。「クレイフィッシュ」というホームページ・デザインの会社があるのですが、この会社はインターネットのこれからの活用法を広く提言しています。コミュニティ作りを新宿という行政単位だけではなく、例えば、テニスが好きな人、お華や旅行が好きな人でコミュニティを作ることできる。若い人は「ミクシィ」というサイトを使っているらしいです。年配の方も共通の趣味の仲間をインターネットで見つけることができるはず。こうしたコミュニティを最終的にインターネットだけで終わらせるのではなく、たとえば街とびフェスタや落語を観に行くことも可能でしょう。新しいコミュニティを作っていくうえでのツールになるかと思います。

司会 : ありがとうございました。

- : 目標年度の平成37年には、ここにいる皆さんの多くが現役を引退しているでしょう。小学生、中学生、高校生の声もアンケートなどを利用して反映させていけないかと思います。

司会 : ありがとうございました。今日は5人の方々の貴重なお話しと、建設的事実に基づいたこれからの議論に素になるお話し、こういうこと話すとか、素材シートに書いたなど、今度、機会があれば発表やお話しを伺っていきたいと思います。どうもありがとうございました。

6. まとめ

◎ : 素材シートは、とても貴重なものなので、何らかの形で整理し補足しながら、皆さんから見た新宿にどんなことがあるのか、何があるのか知るための、全体の共通の財産にしていきたいと思います。こういうものは考える上で、とても大切であり、これによって十分あるじゃないかという気がします。文化として見るのか、何で見るのか、いろいろな視点で見たい。また、産業が活発になって事業活動の収益が上がっても、新宿区の収入にはたいして関係がないという構造があります。そこに問題があります。そのことについて、どういう問題があって、区がどのように取り組んでいるのか、区から説明をしてほしいと思います。それを念頭において、この分科会のテーマのひとつである産業について、考えていきたいと思います。

先ほど、お話ししていただいたこと、ご意見いただいたことについて、若干、私から述べさせていただきます。江戸時代の改革の話がでましたが、例えば、荻生徂徠の政談があるが、当時の江戸幕府は武士が貧しいのは、商人が金を使うからだ。商人に対して戒める儉約令を出した。抑圧されたことが一方で違った文化を育てるのではないか。本当に大成したのか、大成の仕方が問題である、ということを考えながら、今に繋がっているか疑問に感じます。江戸小紋はいかに贅沢を見せないかという贅沢ですよ。江戸小紋は遠くで見るものと、近くで見るものとは全然違う。日本人のすごいところはそういう発想を持っている。京都の町屋のように、いかに横ではなく縦に贅沢をするか。そういうことを考えてみると、文化のいろんな工夫の結果ではなく、確かに産業施策では商人を集め、商人の生む文化もあり、実は簡単な話ではない、ということの複雑な結果が今になっている。例えば、それが言葉に表れている。それを現代から読み解くことを丁寧にやっていきたい。そこまで高尚な議論をしてみたいと思います。

分科会が始まるときに、産業、文化、観光は別のものだという発想の方が多いと思いますが、でも実は重なっているところが多いです。映画館は産業ですが、映画は文化的要素でもあります。この分科会で扱う3つの要素が独自のものと、重なっているものがある。二兎を追って二兎を得るようなやり方もあります。効果を出すために、どういうふうにか考えるか、もう少しつめていきたい。それには、問題のたて方が大事だと思いますので、今後、急いで整理していきたい。

今日、音楽、映画、演劇、製造業、サービス業の5つのテーマで発表していただいたが、この5つに沿って考えるより、例えば、音楽の場合、どういう音楽が区民にとって良いのか、何故良いのか、幸せなのか、そういう抽象的なことを考えます。それは例えば、どのジャンルが足りているのか、足りていないのか考えたいです。今足りていても20年後を考えたときに、どうなっているかわからないし、聞いているものも違うかもしれない。今のうちにそういうものの担い手がい

なければ、20年後の文化もでてこないでしょう。大きな総論から考えて、しだいに各論に落としていくと、その立て方が正確であれば、わかりやすい。その上で、今日出していただいたデータをどう読み解くか、すごく重要になってきます。オーケストラの話も出ましたが、活動とはどういうものでしょう。活動は、「事務所がある」や「ホールがある」という考え方もありますが、事務所とホールと稽古場は違う可能性がある。オーケストラの活動のために何が必要で、何が足りないのでしょうか。その整理をきちっとやっていく必要がある。新宿の場合は典型的だと思うんですが、新宿に常設のオーケストラがあって、当然、音で演奏するわけですよね。ホールごとによって音は違って来る。総じてオーケストラ全体が違って来る。そういうことを考えると何が演奏する側にとって良いのか、その結果が区民にとっていいのか。どうなったらもっと良くなるのか。こういう視点からすると、逆にオーケストラが、拠点としているホールだけでなく、区民の近くに来て音楽を奏することも可能かと思えます。設備なども今あるものを活用していくことが大切です。例えば、野外で映画上映をし、その映画に関連した音楽づくりをワークショップのような形で行っていくと面白いですね。大学もそこそこ人は入る空間があるから、そこで音楽やってもいいわけですね。そういう視点で考えると、ホールに関する資料も整理してほしいです。整理の仕方は、問題を立てるときにいい数字になってくるようにして下さい。映画館も、どういう意味があるのかも考えてほしい。映画館のある所とない所が日本の中でもはっきりとしています。東京から金沢に行った人が、金沢に映画館が無いことを嘆き、映画館を作ったという話もあります。ただ、中身をどう伝えるかといったときに運ばなくてはいけないものが沢山ある。そういう意味で、今の映画館って何なのだろうか、と考える必要がある。また、映画を映画館で見たい人もいれば、DVDやテレビでいいという人もいます。その相互の関連を考えてみると、例えば、いきなり寿司屋に行くのは値段もわからず怖いので、回転寿司で慣れてから寿司屋に行く人もいるだろう。それでまたどうするかということを分科会で議論すべき対象かもしれない。そういう視点でいけば問題はたくさん立てられる。私は、新宿を舞台にした、あるいは何か関連した映画とか、演劇とか、文学とか、そうしたものをアーカイブしていきたい。案外ない。日本全体でシネマパークのようなものはつくらない。外国から見て文化として尊重されていないようです。演劇は、消えてしまうから何らかの形で残しておくことがすごく大切なことだと思います。こういうことを区民の方から訴えて、行政としてのふさわしい活動にすべきです。そういう活動によって、私たちが昔見た演劇を見ることができるかもしれないし、若者が見たらその時代背景だとか、その当時の新宿はこうだったということが映画からわかると思う。

資料の中の、歌舞伎町の映画館の数字ですが、平成15年と16年では人数が減

ってっています。これは上映する映画の内容によって決まってくるが、上映する映画が多いから、お客が増えるということでもないのです。なぜかという、ヒットする映画はどこの映画館でも上映するから、単館で見ると、お客が減るのです。劇場についても、もっと数字の中身を精査しないといけないでしょう。演劇を活動する側には、何が問題なのか、それを享受する側にとって、何が問題なのか、知る必要があります。それをどう解決しようか、というのがここでの議論だと思います。

また、大方の製造業について、なぜ東京から減ったかですが、日本における産業施策のあり方が製造業が特に大都市部から出ていくように政策転換したからです。大学も工場と同じ扱いでしたから、大きくしようとしても、その場所ではできなく、土地の安い場所では大きくできなかった。都市には、製造業にとって大切な「安い社員」がいないので、工場は戻ってこないでしょう。東京の製造業で働く社員とパートで働く人に比べてどちらが賃金高いか安いかの問題が出てくる。今、スーパーにパートでいった方が高い。東北地方の南くらいまではスーパーの方が高いはず。そこからもう少しくと就業機会が無いわけですから、工場の方が高くなる。そう考えると、都会の工場だからといって制限しなくても工場から出て行ってしまった。例えば、東京には、靴下の工場はたくさんあった。しかし、現在はほとんどない。なぜかという、靴下の後工程で、アイロンかけをして、紙を入れて、ハンガーにつるすという作業をするパートの人がいないので、そういう工場は千葉県に行き、さらに遠くの方に出て行くことになります。データを見るときに、数字の裏にある背景・ダイナミズムを見る必要がある。

また、統計で事業所が減っているとしても、大きな力のある工場は出て行けるが、力の無い所は廃業になっているかもしれません。同じ数字の割合でも減っていった理由が違うということもあり得るのです。そのときに、製造業の担い手があって、その思いがあったし、製造業は分業化が盛んでありました。例えば、昔の体温計には目を切る職人さんがいた。しかし、とても食べていけないのでなくなりだし、そこから連鎖反応でどんどん製造業は撤退していった。では、新宿区に産業はいらないのか？産業があっては不幸せなのか？幸せなのか？そういう考え方からひっくり返して行って、新宿区民がどういう産業であつたらいいのかと考えたときにITだけが重要なのでしょうか。ITが求人だけの事務所機能で務まるのか？そういう制度的なことを考えていくと、この分科会としてこうすべきだという説得力がある話ができると思います。

サービス業のところ、先ほど金融・保険・不動産については絶対数は少ないですけど、事業所の比率でいうと新宿区はけっこう多いですね。製造業について、少ないですが、大田区や墨田区が多いところがあるからです。製造業がたくさんある大田区や墨田区は何をしているか知ってもいいと思います。例えば、墨田区

は今残っている中小零細企業が生き残れるような様々な施策をとっています。職員の課長以上の人間は、営業に回って実態を知るようにしています。もしかしたら、新宿区でもそういう動きが生まれるかもしれません。

そういうようなことをデータから読み込んでいくと、もっともっと面白い情報が得られるかと思います。供給側の問題ですので、需要側から細分化してみるわけです。先ほどの例をとると、DVDで映画を見たいのか、映画館で見たいのか、ケーブルテレビで見たいのか。これらの観点から、何か仕掛けをつくると発展するかもしれない。映画の面白さを取り上げて刺激を受けた人達が何かの関心を引いてくると今までケーブルテレビで満足していた人が違って来るかもしれない。そういうものをここでの議論の対象にしていきましょう。そうすると、もっと深みのある、面白いものに仕上がっていきますね。

そういう意味で、最初から言ってきましたが、問題の立て方をきちっとやっていきましょう。そうしないと、あちこち議論がいつてしまい、議論が終わらず、結果が出ないです。そういうことを次回からやっていきたいと思います。以上です。

#### 7. 事務連絡

○ : 素材シートについて、今回提出されなかった方は、次回までに提出して下さい。

・ 11月、12月の分科会の日程ですが、皆さんにお諮りしたいと思います。

11月は、11月 7日(月)と11月25日(金)

12月は、12月 5日(月)と12月15日(木)です。

※時間は、いずれも午後7時～9時の予定です。

場所は、決まりましたら、後日、お知らせします。

・ 次回の分科会は

10月24日(月)午後7時～9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

テーマは「観光」で行います。

・ 第4回「新宿まちづくり学講座」が

10月19日(水)午後6時～9時 早稲田大学総合学術情報センター3階

テーマは「環境都市と未来」です。

以上